

2017年1月11日  
東日本電信電話株式会社  
西日本電信電話株式会社

## “防災とボランティア週間”における災害用安否確認サービス「災害用伝言ダイヤル(171)」および「災害用伝言板(web171)」の体験利用について ～ あなたの無事を伝えましょう ～

NTT 東日本・NTT 西日本(以下、NTT 東西)は、災害等の発生によって連絡が取りにくい場合、家族、親戚、知人などの安否情報をより確実に音声等で確認できる手段として、「災害用伝言ダイヤル(171)(電話サービス)」および「災害用伝言板(web171)」を提供、運用しています。

「災害用伝言ダイヤル(171)」および「災害用伝言板(web171)」を、“いざ”という時にスムーズにご利用いただくには、日頃から家族、親戚、知人などの間で安否を確認するための「キーとする電話番号」※1を予め決めておくことや、「自分の無事を伝える」ことに慣れておくため事前に体験していただくことが有効です。そこで、多くの方々に連絡方法を確認していただけるよう、2017年1月15日(日)から始まる“防災とボランティア週間”に合わせて、「災害用伝言ダイヤル(171)」および「災害用伝言板(web171)」の体験利用期間を設定します。

なお、より多くの方々に体験していただけるよう、“毎月1日および15日”※2“正月三が日”※3“防災週間”※4にも、「災害用伝言ダイヤル(171)」および「災害用伝言板(web171)」の体験利用期間を設定しています。

- ※1「災害用伝言ダイヤル(171)」で「キーとする電話番号」として設定できる番号は、固定電話(市外局番から始まる電話番号)、IP 電話(050 から始まる電話番号)、携帯電話、PHS です。
- ※2 毎月1日および15日 0時～24時
- ※3 毎年1月1日 0時～1月3日 24時
- ※4 毎年8月30日 9時～9月5日 17時

### 1 今回の体験利用期間

2017年1月15日(日)9時～1月21日(土)17時

\*実際に災害が発生した場合は、体験利用を中止する場合があります。

## 2 ご利用料金

### (1)「災害用伝言ダイヤル(171)」

NTT 東西が提供する加入電話、ISDN、公衆電話、ひかり電話から伝言を録音・再生する場合の通話料は無料です。その他の通信事業者の加入電話、IP 電話、携帯電話や PHS 等から発信する場合の通話料の有無等は各通信事業者にお問合せください。

### (2)「災害用伝言板(web171)」

安否情報の登録、閲覧等に伴うサービス利用料は無料です。インターネット接続費用やプロバイダー利用料および、ダイヤルアップ接続に係る通信料等は別途必要となります。メールや電話(音声)による伝言登録内容の通知機能をご利用頂く場合、通知先のお客様のご利用条件<sup>※5</sup>によっては通知先のお客様に通話料・通信料が発生します。

- ※5 メール通知をご利用の場合、パケット通信料がかかります。また、電話(音声)通知を転送電話サービスや海外での国際電話ローミングサービスにてご利用される場合は通話料がかかります。

## 3 災害用伝言板(web171)ご利用上の注意点(利用者情報を登録いただいている方へ)

ご登録いただいている利用者情報を最新の状態に保つために、伝言通知先の確認及び不要になった利用者情報の削除をお願いしています。利用者情報登録時の基本情報に登録されたメールアドレスに、利用者情報の確認依頼メールを送付しますので、1月21日の体験利用終了時までにご利用情報のご確認をお願いします。ご確認いただけない場合、利用者情報を削除させていただきますのでご注意ください。なお、確認方法は下記URLの「利用者情報の確認方法」を参照願います。

NTT 東日本 <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/web171s/kakunin.html>

NTT 西日本 [https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/howto\\_1.html#sec-b](https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/howto_1.html#sec-b)

(関連資料)

≪別紙 1≫“防災とボランティア週間”における「災害用伝言ダイヤル(171)」のご利用条件、操作方法等について

≪別紙 2≫“防災とボランティア週間”における「災害用伝言板(web171)」のご利用条件、操作方法等について

≪別紙 3≫「災害用伝言ダイヤル(171)」と「災害用伝言板(web171)」の機能連携について

≪別紙 4≫「災害用伝言板(携帯電話)」の体験利用との連携について

(お問合せ先)

○お客さまからのお問い合わせ先

局番なしの「116」(9時～17時、土・日・祝日も営業 年末年始 12/29～1/3 を除く)

(参考)

「災害用伝言ダイヤル(171)」および「災害用伝言板(web171)」の詳細は、以下のホームページで紹介しております。

NTT 東日本 URL <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/>

NTT 西日本 URL <http://www.ntt-west.co.jp/corporate/disa.html>

《別紙1》

“防災とボランティア週間”における「災害用伝言ダイヤル(171)」のご利用条件、操作方法等について

1. 概要、提供状況等

「災害用伝言ダイヤル(171)」は、災害発生により被災地等への安否確認の電話が急激に増加して電話がかかりにくい状態になった時に、被災地の自宅電話番号等をキーにして安否等の伝言をお預かりし、被災地内外の家族や親戚、知人等との安否連絡を可能にする声の伝言板です。

1995年に発生した阪神・淡路大震災での教訓を踏まえ災害発生時の緊急連絡手段として開発されたもので、1998年3月から提供してまいりました。2011年3月の東日本大震災では約347万件<sup>※1</sup>のご利用をいただいております、これまでご利用いただいた方々の声をもとに、2016年3月18日より、IP電話(050含む)、携帯電話、PHSの電話番号からの伝言の登録・再生が可能となると共に、災害用伝言板(web171)と連携することでそれぞれ登録された伝言内容を相互に確認することが可能となりました。

なお、昨年の“防災とボランティア週間”(2016年1月15日～1月21日)における体験利用の利用件数は、全国で約3万2千件<sup>※1</sup>でした。

※1 録音と再生の延べ件数です。

2. 運用時におけるご利用条件

	体験利用の場合	実際の災害発生時
1.伝言の録音・再生の際にキーと登録できる電話番号	全国の加入電話、ISDN、ひかり電話および光コラボレーション事業者様が提供するひかり電話サービス、IP電話(050の電話番号から始まるIP電話も含む)、携帯電話、PHS	被災地内等の全ての加入電話 <sup>※3</sup> 、ISDN、ひかり電話および光コラボレーション事業者様が提供するひかり電話サービス、IP電話(050の電話番号から始まるIP電話も含む)、携帯電話・PHS
2.伝言蓄積数	電話番号あたり20件 <sup>※2</sup>	※3
3.伝言保存期間	体験利用期間終了まで	
4.伝言録音時間	30秒	同左
5.利用が可能な電話・端末	加入電話、ISDN <sup>※4</sup> 、公衆電話 <sup>※5</sup> 、ひかり電話および光コラボレーション事業者様が提供するひかり電話サービス <sup>※4</sup>  携帯電話、PHS、他通信事業者の電話からの利用可否は、ご契約の通信事業者にご確認をお願いします。	加入電話、ISDN <sup>※4</sup> 、公衆電話 <sup>※5</sup> 、ひかり電話および光コラボレーション事業者様が提供するひかり電話サービス <sup>※4</sup>  携帯電話、PHS、他通信事業者の電話からの利用可否は、ご契約の通信事業者にご確認をお願いします。

※2 伝言登録可能件数を越えて伝言を登録する場合は、古い登録から上書きとなります。

※3 伝言蓄積数、伝言保存期間は、災害の状況により異なります。最新の情報は NTT 東日本、NTT 西日本

公式ホームページ等でご確認ください。

・NTT 東日本 <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/news/index.html>

・NTT 西日本 <http://www.ntt-west.co.jp/dengon/news/>

※4 ISDN 及び、ひかり電話でダイヤル式電話をお使いの場合には、ご利用になれません。

※5 以下のホームページで、公衆電話設置場所をご確認いただけます。

・NTT 東日本 <http://service.geospace.jp/ptd-ntteast/PublicTelSite/TopPage/>

・NTT 西日本 <https://www.ntt-west.co.jp/ptd/map/index.html>

### 3. ご利用にあたっての留意点

- ・家族や親戚、知人等との間で、録音・再生の際の「キーとする電話番号」を予め決めておいてください。
- ・限られた録音時間内での確に情報を録音できるようお話しください。
- ・伝言を再生する場合は、「キーとする電話番号」を指定することご利用できます。

# 【災害用伝言ダイヤル（171）の基本的操作方法】

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音、再生を行って下さい。

操 作 手 順		伝言の録音		伝言の再生	
①	171をダイヤル	<b>1 7 1</b>			
②	録音または再生を選ぶ。	[ガイダンス] こちらは災害用伝言ダイヤルセンターです。録音される方は1、再生される方は2、暗証番号を利用する録音は3、暗証番号を利用する再生は4をダイヤルして下さい。			
		(暗証番号なし)	(暗証番号あり)	(暗証番号なし)	(暗証番号あり)
		<b>1</b>	<b>3</b> [ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 <b>XXXX</b>	<b>2</b>	<b>4</b> [ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 <b>XXXX</b>
③	被災地の方の電話番号を入力する。	[ガイダンス] 被災地域の方のご自宅の電話番号を、または、連絡を取りたい被災地域の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい <b>0XX XXXX XXXX</b>			
<b>伝言ダイヤルセンターに接続します。</b>					
④	メッセージの録音 メッセージの再生	[ガイダンス] 電話番号0XXXXXXXX (暗証番号XXXX) の伝言を録音します。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」をおして下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直してください。		[ガイダンス] 電話番号0XXXXXXXXの伝言をお伝えします。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」をおして下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直してください。	
		ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合	ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	<b>1</b>	(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	<b>1</b>
		[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ピッという音のあとに30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら電話をおきり下さい。	[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ピッという音のあとに30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら数字の9を押して下さい。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。伝言を繰返すときは数字の8を、次の伝言に移る時は数字の9を押して下さい。
		伝言の録音		伝言の再生	
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	録音終了後 <b>9</b> [ガイダンス] 伝言を繰返します。訂正されるときは数字の8を押して下さい。再生が不要な方は9を押して下さい。 録音した伝言内容を確認する。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。電話をお切り下さい。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。伝言を追加し録音されるときは数字の3を押して下さい。  (ガイダンスが流れるまでお待ちください)
[ガイダンス] 伝言をお預かりしました。		[ガイダンス] 電話をお切り下さい。			
⑤	終了	自動で終話します。			

**覚えてください、災害時の声の伝言板 災害用伝言ダイヤル(171)**

《別紙2》

“防災とボランティア週間”における「災害用伝言板(web171)」のご利用条件、操作方法等について

1. 概要、提供状況等

「災害用伝言板(web171)」は、大規模災害等発生時にインターネットを利用した被災地の方々の安否情報を確認する手段として、2005年8月より「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」を提供してまいりました。これまでご利用頂いた方々の声をもとに、スマートフォンへの対応や伝言登録の通知に加え、英語、中国語、韓国語に対応するなど新たな機能を追加し、2012年8月30日から「災害用伝言板(web171)」として提供しております。

2011年3月の東日本大震災では約33万件<sup>※1</sup>のご利用をいただいております、これまでご利用頂いた方々の声をもとに、2016年3月18日より、災害用伝言ダイヤル(171)との連携等の機能を追加しそれぞれ登録された伝言内容を相互に確認が可能となりました。

なお、昨年(2016年1月15日～1月21日)における体験利用の利用件数は、全国で約1万5千件<sup>※1</sup>でした。

※1 登録と閲覧の延べ件数です。

2. 運用時におけるご利用条件

項目		体験利用の場合	実際の災害発生時
安否情報の新規登録および追加登録	ご利用できる端末等	インターネットに接続ができるパソコン、携帯電話及びスマートフォン等 <sup>※2</sup>	同左
	登録可能電話番号(被災地電話番号)	全国の加入電話、ISDN、ひかり電話および光コラボレーション事業者様が提供するひかり電話サービス、IP電話(050の電話番号から始まるIP電話も含む)、携帯電話、PHS	被災地内等の全ての加入電話 <sup>※3</sup> 、ISDN、ひかり電話および光コラボレーション事業者様が提供するひかり電話サービス、IP電話(050の電話番号から始まるIP電話も含む)、携帯電話・PHS
	登録可能エリア	全国	同左
	伝言入力方法	テキスト入力 (1伝言あたり100文字以下)	同左
	登録可能件数	電話番号あたり20件 <sup>※4</sup>	同左 <sup>※4</sup>
	保存期間	体験利用期間終了まで	最大6ヶ月 <sup>※5</sup>
	多言語対応 <sup>※6</sup>	日本語、英語、中国語、韓国語	同左
	携帯事業者間との安否情報の相互検索	株式会社NTTドコモ KDDI株式会社 沖縄セルラー電話株式会社 ソフトバンク株式会社	同左
	事前登録された連絡先への安否情報の連絡	メール:10件 電話:1件	同左
安否情報の閲覧	ご利用できる端末等	インターネットに接続ができるパソコン、携帯電話及びスマートフォン等 <sup>※2</sup>	同左
	閲覧可能エリア	全国	同左

※2 機種によってはご利用いただけない場合があります。

※3 被災地の番号エリア設定は市外局番を単位とします。

※4 20件をこえる場合は、古い伝言から削除され、新しい伝言が保存されます。

※5 伝言の登録可能件数、保存期間は、災害の状況により異なります。最新の情報は NTT 東日本、NTT 西日本公式ホームページ等でご確認ください。

・NTT 東日本 <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/news/index.html>

・NTT 西日本 <http://www.ntt-west.co.jp/dengon/news/>

※6 音声通知については、日本語のみとなります。

携帯専用 Web サイトについては、日本語と英語のみとなります。

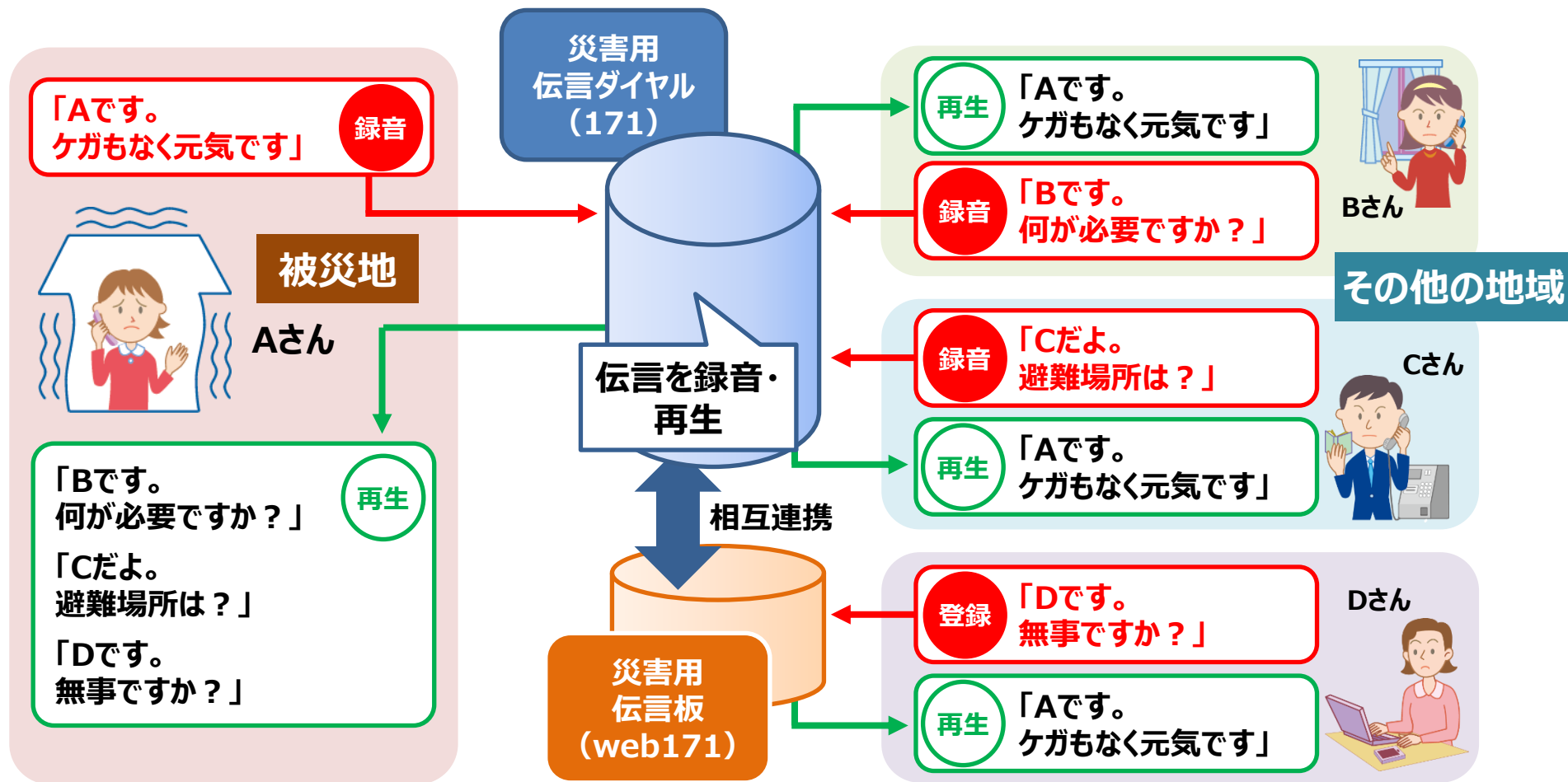
### 3. ご利用にあたっての留意点

- ・家族や親戚、知人等との間で、登録の際の「キーとする電話番号」を予め決めておいてください。
- ・伝言の入力文字数に制限がありますので、ご注意ください。
- ・伝言を閲覧する場合は、登録の際の「キーとする電話番号」を指定することでご利用できます。
- ・メールや電話(音声)による伝言登録内容の通知機能をご利用頂く場合、通知先のお客様のご利用条件<sup>※7</sup>によっては通知先のお客様に通話料・通信料が発生します。

※7 メール通知をご利用の場合、パケット通信料がかかります。また、電話(音声)通知を転送電話サービスや海外での国際電話ローミングサービスにてご利用される場合は通話料がかかります。



2016年3月18日（金）より「災害用伝言ダイヤル（171）」と「災害用伝言板（web171）」との連携により、それぞれで登録された伝言内容を相互に確認することが可能になりました。

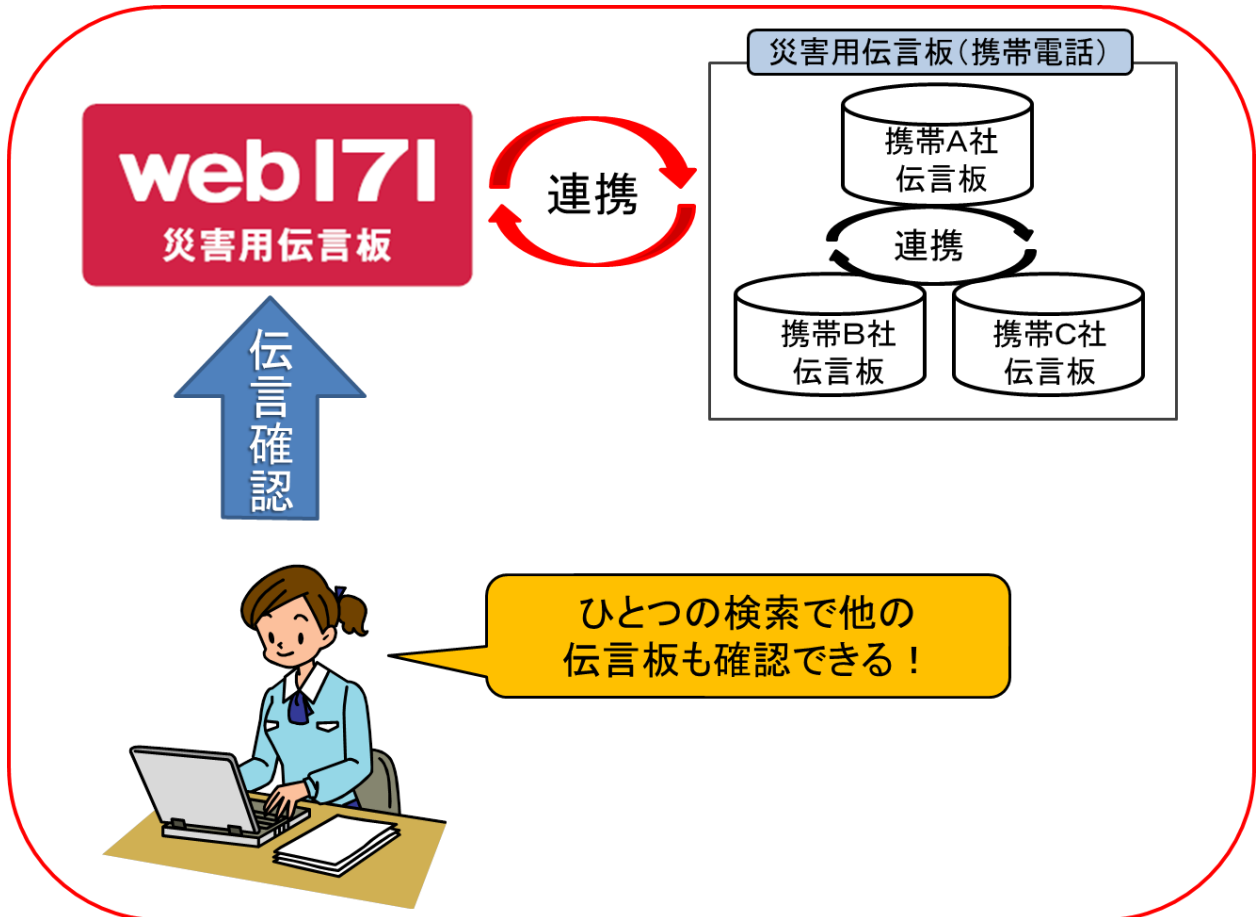


- \* NTT西日本・NTT東日本の電話から伝言を録音・再生する場合の通話料は無料です。  
その他の事業者の電話、携帯電話やPHSから発信する場合の通話料の有無等については各事業者にお問い合わせください。
- \* web171利用に伴うインターネット接続費用や通信料はお客さま負担です。  
なお、伝言情報の登録・閲覧に伴うサービス料は、無料です。
- \* お預かりする伝言の登録件数や保存期間については、サービス提供時にお知らせいたします。  
登録件数には限りがありますので、緊急の方以外のご利用は控えください。

《別紙4》

「災害用伝言板(携帯電話)」の体験利用との連携について

「災害用伝言板(web171)」については、携帯各社が提供する「災害用伝言板(携帯電話)」と連携しており、相互での伝言の確認が可能です。



携帯各社においても1月中旬から「災害用伝言板(携帯電話)」の体験利用が実施され、「災害用伝言板(Web171)」と連携したご利用も可能となります。

【参考】「災害用伝言板(携帯電話)」について

「災害用伝言板(携帯電話)」は震度 6 弱以上の地震など、大きな災害が発生した時に、被災地域にお住まいまたはご滞在中の方が、携帯電話やスマートフォンからご自身の状況を登録していただくことができ、登録された安否情報はインターネットを通じて、世界各地から確認していただける災害時専用のサービスです。